

No. 50

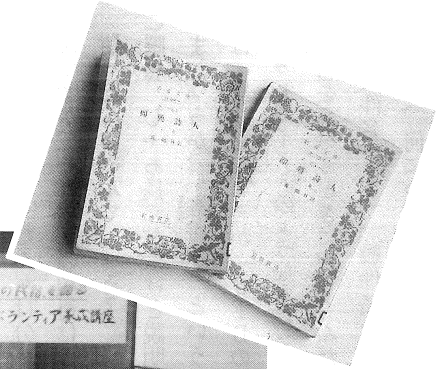
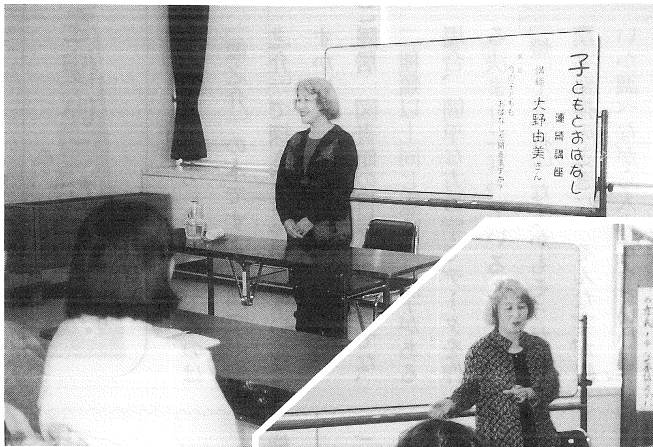
2003年3月1日発行

宇治市中央図書館
〒611-0023 宇治市折居台1-1
0774 (39) 9256

宇治市東宇治図書館
〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割36-5
0774 (39) 9182

宇治市西宇治図書館
〒611-0042 宇治市小倉町山際63-1
西小倉地域福祉センター3階
0774 (39) 9226

と し ゃ か ん 宇 治



中央図書館での
講座風景

「即興詩人」の主人公は？

子どもの本研究者 大野 由美

師走にローマから戻りすぐに、安野さんの「絵本即興詩人」を求めた。今回も三日間、バルベリーニ近くの宿から、カラヴァッジョを見歩いてきただけに、本をくりながら「アントーニオはカラヴァッジョでは？」という今迄の思いを一層強くした。

勿論、アンデルセンがその自伝で、「ローマにいた時、国の知人からきた手紙のうち、ハイペーアが私について言った言葉を内々に伝えてくれた人があった。それによると、彼は私のことを、あれは一種の『即興詩人』のようなやつだ、といったそうである。このうまい言葉が私の新たな創作に名前と人物とをあたえる火花となったのである」(大畑末吉訳)と記しているのだから、アントーニオはアンデルセン自身とっていいだろう。なるほど幼少時はアンデルセンの回想と大いにダブっている。然し、愛する人のために恋敵を傷つけナポリに逃れるあたりからは、破天荒な画家カラヴァッジョの生と重なってくる。この頃のアンデルセンは、詩人として生きたいと願いつつも、故郷デンマークでの彼の作品への酷評から打ちのめされていた。そんな中でカラヴァッジョの画と出会い、その強烈な生を知ったとしたら。それにアンデルセンはコリン伯から、カラヴァッジョはボルゲーゼ侯から援助を受けていて、境遇でも似ている。自分と似て非なる彼の生から、何らかのインスピレーションを得たのでは…と私は想像するのだが…。

私が好きでよく語る、イギリスの作家エリナ・ファエーションの「貧しい島の奇跡」と全く同じエピソードを、アンデルセンの自伝の中に見つけた時、私の考えも満更まちがってはいまいと思った。

安野さんの本で、ローマに想いを馳せながら、次は是非、森鷗外の訳の「即興詩人」を読もうと思っている。

インターネット検索を使いこなそう!

「隠居と熊さんの」

熊 ご隠居、宇治市の図書館でえのはけしからんとおすな!!

ご隠居 おやどうした熊さん、そんなに怒って。

熊 いえね、あっしもこないだご隠居が言ってたインターネット予約ってえのをしようと思つて、このあいだ図書館に行って、予約パスワード申請の手続をして、さっきから検索してたんですが、「芥川龍之介」の本が見つからないんですよ、図書館の癖に芥川の本が一冊も入ってないなんて何を考えてるんだか。

ご隠居 おいおい熊さん、私も昨日図書館に行ってきたけどちゃんと芥川の本も棚にならんでましたよ。

熊 へ?有りましたか?

ご隠居 おおかた探し方が悪かったんだらうどれ、見せてみなさい。(熊さんのパソコンを覗き込んで)ふんふん、これじゃあ出てきませんよ、「芥川龍之介」と入れて検索してごらんよ。

熊 ご隠居、あっしが探してるのは「龍之介」の本ですよ。何で「龍之介」で探さなきゃいけないんですかい?

ご隠居 図書館の目録の作り方で、二種類以上同じ意味の漢字がある場合、簡単な方の字でデータを作る決まりになってるんだよ。「燈」と「灯」なんかもそうだな。漢字変換のときに、そんな字が無いか調べながら入力するといひよ。

熊 ご隠居、もうひとつ分からねえことがあるんですが、検索の画面で「書名/タイトル」とか「著者名」・「出版者」なんかは分かるんですが、それ以外の項目はどう使ったらいいんでしょう?

ご隠居 じゃあ長くなるけど説明しましよか、「叢書名」というのは「岩波文庫」とか「JTBのポケットガイド」のような本のシリーズ名を調べるときに使うもんだ。「個人件名」・「一般件名」というのは、何について書かれた本か

ということをキーワードにして探す時に使うんだ。例えば「宮本武蔵」の伝記を探るときは「個人件名」、「環境問題」についての本を調べるときには「一般件名」といった具合だ。

熊 じゃあ「書名等」と「著者名等」っていうのは何なんですか?

ご隠居 文学全集の収録作品だとか、さっきの「件名」なんかを全部まとめて検索できるんだ。その分、普通の検索より幅広く調べられるが、場合によっては大量に検索結果が出てきて、目当ての本が見つかるまでに一苦労な具合になりかねないからまあ、「書名/タイトル」・「著者名」で目当ての本が見つからない、なんて時に使うといひんじやないかな?

熊 うーん、なんだかわかったようならな。いろいろな。いよな。

ご隠居 まあ堅苦しく考えずに遊んでおと思つて色々やってみるんだね。ご隠居もよく色々知ってますね。

ご隠居 あたりまえだろ、昨日同じことを図書館で聞いてきたんだから...



※としかんの本は汚さないでね!

＜図書館のホームページは＞
<http://library.city.uji.kyoto.jp/>
 (iモード <http://library.city.uji.kyoto.jp/i/>)
 予約パスワードの申込は各図書館で受け付けています。

緊張して、少し疲れました。特に本を棚に戻す作業は、立っ

★お疲れ様でした。総合的な学習で「働く」がテーマだとの事ですが、今日の感想を聞かせて下さい。

今回は、東宇治図書館で職場体験をしてくれた、木幡中学校一年生のお二人にお話をうかがいました。



図書館へようこそ

利用者インタビュー

第36回

西村由紀子さん
桑鶴由香さん

たり、しゃがんだり、とても大変でした。

足や首がすぐく痛かったです。でも、ワゴンの上の本が全部片付けられた時の達成感は最高でした。

★若い方でもそうなんです。ご苦労様でした。返却の仕事はどうでした？

コンピュータを使ってする仕事はとっても楽しくて、もう少し続けてやってみたかったです。

★ところで、今日は歩いて来てくれたんですか？

はい、木幡から電車です。家からずっと歩くと三十分ぐらしかかります。

★少し遠いですね。

はい。平日は部活があるので、ここには日曜日に家族で来ます。

★学校の事を少し教えて下さい。

「朝の十分間読書」の時間はあります。

はい。でも、なかなか本に集中できない時もありますし、夢中になって十分間で済まな

人も時々います。

★その本は学校の図書館で借りてるんですか？

いいえ、たいてい家から持って行って読んでいます。

学校の図書館は、いつでも利用できるのではなく、開く時に放送が入るのですが、ほとんど利用していません。

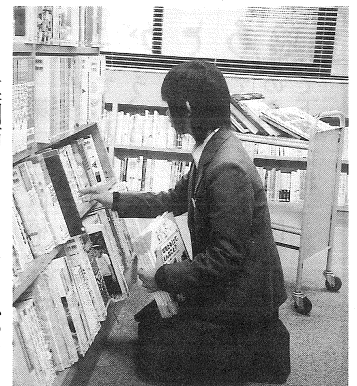
★ちょっと残念ですね。

図書館に何か望む事はありますか。

マンガがもっとあればうれし

★最後に、よかったら、将来の夢を教えてください。

絵を描く人になりたいです。



★どうもありがとうございました。

薬剤師になりたいと思っています。

テニス部で活躍する二人は、とても爽やかな女の子でした。

もちろん、アルバイトの経験もありますので、大人ばかりの中で、初めての「仕事」です。かなりの緊張の中、こつこつ一生懸命実習をしてくれました。

素敵な夢を持っている少女たちが、いろんな事に興味を持って素晴らしい体験をたくさんしてくれたらなあと思います。そして、これを機会に、本に、図書館に、親しみを持ってもらえたら、とっても嬉しいのですが…。



郷土のはなし

桜町の愛宕燈籠

宇治橋西詰を少し南に行ったところから、平等院北門へ通じる道は、通称平等院通りと呼ばれています。両側には茶商やおみやげ屋さんなどの店が立ち並び、観光客で賑わっています。

平等院通りは、正しくは府道平等院線といいますが、古くは桜馬場と呼ばれ、桜並木の道のようにでした。古い記録によれば、中世の末頃は河原で、後に耕地となり、やがて家が建ち並んできたとされています。江戸時代の初め頃の宇治町を描いた絵図に、道の両側に家が描かれており、すでに住宅が並んでいたことがわかります。また江戸時代には、この道の両側は桜町と呼ばれ、年寄や月行事の役人がいました。現在でも町内



会の一組織として、その名が残されています。

ところで、この通りの中ほどの西側に町会所があり、そのそばに愛宕燈籠があります。高さ一・五メートルもあり、一部を彫り出して地藏尊がまつられています。また、側面には「元和九年（一六三三）桜町中 愛宕山大権現 藤原九兵衛作」と記されており、製作年代と製作者を知ることが出来ます。旅人として宇治を訪れた川口好和は、この燈籠を見学したようで、その随筆『奇遊談』に、

宇治平等院の北のかた、町のはづれ北面に石燈籠あり、いづれにも村里のはしくには、火伏守護の為に愛宕権現に奉る燈明あり、此里にもここかしこにあるなり、この平等院の前なるはさせるものならねど、元和二年と彫刻せり、かゝるわづかなるものなれど、百八十四年の星霜をへたるも希なりと紹介しています。元和二年と記しているのは誤記と思われます。この愛宕燈籠は、通りに面しておらず、わかりにくいため、訪れる人は少ないですが、地元の人々によって大切に守られています。

平等院通りは、現在では「平等院表参道」と呼ばれるようになりました。平成十三年秋、環境省によって「かおり風景百選」が選定されましたが、その一つに「平等院表参道―茶のかおり―」が選ばれました。茶の香りがただようこの通りは、いかにも宇治らしい雰囲気をかもし出し、訪れた観光客にも、宇治の思い出として、いつまでも心に残ることでしょう。

ついに第五〇号と
なりました!!

早いもので、この「とじょかん宇治」も今号で第五〇号となりました。今まで発刊されたものをみると、図書館の歴史とともに歩んできたんだなあと感じます。市民図書館から中央図書館へ、そして東宇治、西宇治が開館し……。その間、ずいぶん長い年月が過ぎましたが、今でも、宇治公民館時代から利用しています。本当に市民の方が多く来られます。本当にありがたいなあと思います。さて、第百号が出るころには、どういう図書館になっているのでしょうか。今から楽しみにしています。

〈注釈〉
第一面

- 『即興詩人』：アンデルセン・著、岩波書店刊。
- 『絵本即興詩人』：安野光雅・著、講談社刊。
- バルベリーニ：イタリアの首都ローマの都心の広場。
- カラヴァッジョ：イタリアの画家。
- 一五七三頃（一六一〇）。
- アントーニオ：小説『即興詩人』の主人公。
- 第四面
- 『奇遊談』：川口好和・著、寛政十一年（一七九九）刊。

利用案内

- ・市内に在住、または市内に通勤・通学されている方なら、一人10冊3週間（そよかぜ号は約1ヵ月）本が借りられます。貸出券は全館共通です。
- ・図書館は9時から17時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、第4木曜日、祝日、年末年始です。

あ と が き

第一面の原稿を読んで、そういえばアンデルセンって、どんな人だったんだろう、と思う、伝記を読みました。うーん、私のイメージとは、ずいぶん違っていました。興味のある方は、図書館で借りて下さいね。(T)